

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100867		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム あそうだ		
所在地	熊本市北区麻生田2丁目5番41号		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果市町村受理日	平成26年9月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年8月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・法人が掲げている理念に基づいた個別ケアの実践を心掛けている。 ・利用者に寄り添い、無理のない介護を行っている。 ・利用者のご家族からの要望には、話し合い丁寧に対応している。 ・職員一人ひとりが利用者のことを一番に思い介護ができています。 ・月に1度以上は地域のボランティアや保育園の園児に来館して頂いている。 ・2ヶ月に1度の運営推進会議で出たご家族や自治会長、民生委員などから出た意見や要望に対する対策を一つひとつ検討している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して4年目のホームは管理者変更等過度期にあり、運営推進会議を活用しながら地域との関係性の構築に向けた取り組みや家族に対する満足度アンケート、食に関するアンケート等を生かしながら家族との信頼関係の構築とともにサービス向上にまい進している。ホームでの料理作りに戻す取り組みとしての料理研修やカスタマーオーダーシート(24時間シート)を見直しながら家族の思いに応えるよう努力している。開設時より継続した保育園児との相互交流やボランティアの訪問の他、地域の中のホームとして清掃活動や自治会総会に参加しており、今後の展開に大いに期待できる。白寿を迎えられた入居者もおられる中で、職員は手引き歩行に徹し、寄り添いながらの穏やかなゆっくりとした生活は理念の他、スローガンや日々目標を掲げた成果であり、今後も家族と共に入居者の一日一日に寄り添い、潤いのある生活に大いに期待したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ あ 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	愛誠会建学の精神「愛情・真心・敬い・慈しみ・いたわる心」平成26年度スローガンを玄関、スタッフルームに掲示し、また3ヶ月に1回の夕礼・月に1回の検討部会・スタッフミーティングに唱和を行い理念の共有と実践を行っている。	今年度は新体制として管理者を中心に個別ケアやゆっくりとしたケアを実践し、日々目標を立て、寄り添う介護の徹底等意識を高めて臨んでいる。法人建学の精神やスローガンをケア規範とし、掲示の他、検討部会やミーティング時は唱和によるスタートとして意識強化を図っている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事参加として麻生田地区の夏祭り、秋の大祭などに参加。地域ボランティアの方々には施設行事に来館頂き、歌、踊りを披露して頂いている。また地域の保育園、社協とも連携しご利用者と子供との交流の機会を設けている。	年間計画を立て、地域行事(夏祭り・秋の大祭等)への参加や家族・近隣住民を招きホーム行事を開催している。継続した保育園との相互交流やボランティアの訪問の他、地域の中での生活拡充に努力しており、今年度は運営推進会議を通じ自治会長とともに防災訓練マニュアルの作成や一斉掃除・町内会の総会等に参加している。	職員は近隣住民へのあいさつを励行することで顔見知りの関係に努めており、地域住民との交流の機会等を活かしながら、気軽に立ち寄れるホームとされることが期待される。地域住民との交流をホームの啓発の一環として、また入居者の日常生活の活性化として生かしていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設してから地域との連携を活発に行っている。今年度も地域の老人会、保育園、ボランティアとの連携を図る。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施しており、社協、自治会、ご家族様から事業所に対する意見や要望を聞き、事業所の運営やケアサービスに取り入れるようにしている。	定期的開催する運営推進会議は、現状報告の他、参加者からの意見や要望を収集する機会としてホーム運営に反映させている。地域包括センターや民生委員、家族の他、今年から自治会長の参加を得て、家族へのアンケート結果や参加者からの意見に対する進捗状況が説明される等充実した会議である。	充実したメンバー構成と参加者の意見も多く出される等有意義な会議となっており、自己・外部評価の結果報告や課題について運営推進会議のなかで意見交換されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市高齢福祉課から介護相談専門員が毎月来館されている。取組みとして、ご利用者のニーズを第三者の立場で聞き取って頂き、その報告書を基にケアサービスや施設運営に活かしている。	集団指導への参加や実地指導の他、地域包括支援センターによる待機者確認や、運営推進会議参加時にアドバイスを得ながらサービスに反映させている。また、介護相談員を受け入れ、報告書をもとにしたケア向上につとめ、管理者は認知症リーダー養成研修の準備に企画・参画する等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の排除マニュアルや過去の事例などを活用し、全職員を対象とした勉強会を研修計画に基づいて行い、スタッフ間による話し合いを重ねている。	計画した研修により全職員が拘束の弊害を正しく認識し、事例を通じた話し合いや家族の思い等を察しながら拘束の無いケアに努めている。入居者の入れ替わりも無く、落ち着いた生活であり帰宅願望の方はおられないが玄関は施錠している。また、職員同士日々声掛け等注意喚起しながらケアに取り組んでいる。	玄関の施錠について、全員で日中は開錠する方向性を検討いただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法関連法に関する職員研修を行い、利用者本位のケアに活かす試みを行っている。入浴時等、ボディチェックを行い、虐待が見過ごされないよう職員一人ひとりが心がけケアに当たっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名のご入居者の方が利用されている。日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する職員内部研修を行い、今後のケアに活かす試みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	定期的に研修会を行っている。また契約時には、契約書とは別に重要事項説明書を項目毎に分かり易く説明しご了承頂いた後、署名、捺印を頂いている。改正時も同様で、変更合意書の取り交わしを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回運営推進会議にご家族にも会議メンバーとして参加して頂き、ご本人およびご家族の要望、施設運営についての率直な意見を頂いている。ご家族様満足度アンケートの実施により意見を頂き、運営に反映させている。	家族向けに満足度アンケートや食に関するアンケートをケア向上に生かしたり、運営推進会議を問題提起の場として活用している。アンケート結果や出された課題は掲示や運営推進会議の中での話し合いの他、進捗状況を逐一説明している。又、訪問時や電話等により聞き取りし、ケアに反映すべく毎月検討部会で話し合いを重ねている。	運営推進会議には多くの家族が参加されており、家族同士の話し合いの場を作り、徐々に家族会の設立に向かうよう尽力いただきたい。また、玄関先にアンケート用紙が設置されているが、無記名で投函できる意見箱の設置を検討されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者、全職員が参加する質の向上を目的とした検討部会を月1回行っている。その際、職員から意見、要望を出して貰うことによりケアの現状、課題を全体把握し、スタッフの質の向上や目標の共有化を図っている。	毎月の検討部会(法人代表・管理者及び全職員)で家族の意見や要望の他、経営実績等全員で話し合いを行い、サービス向上に反映させている。管理者は日々職員とのコミュニケーションに努め、風通しのよい関係を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者、職員の勤務状況の業務スケジュール等把握し無理、無駄のない業務確認を行い、毎月のスタッフミーティングにより職員からの意見を取り入れている。又、定期的に個別面談を行い意欲の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内、法人全体での職員研修を定期的実施している。職員個人の達成レベルに応じたカリキュラムを整えた、通年の目標達成計画を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設見学を行い、市内の同業他事業所との職員間、利用者間ネットワークを育て、相互理解、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人、家族、担当ケアマネージャーに会い、カンファレンスを行いご本人の身体、精神状態等を確認し生活がスムーズに出来るように準備している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、今までの生活スタイルや家族の介護経験を聞き、本人のより良い生活が継続できるよう準備している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入にあたってはグループホームの介護のみでなく、今までのサービス内容が継続できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の手伝いや片付け等を一緒にしたりして暮らしを共にする者同士の関係作りを目指し支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に本人に関することは、相談した上で、共に本人を支えていく関係を築けるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った場所での神社のお参りなどを大切にし、個別援助計画による個別バスハイクや散歩で寛ぎの場所となるよう支援に努めている。	神社参拝や近隣の散歩、友人との外出、墓参りや外出等家族の協力を得ながらこれまでの関係性の継続に努めている。また、趣味を生かし字の練習や塗り絵等の個別支援や七夕会・クリスマス・ひな祭り等慣習を継続している。	毎月援助報告書により家族へ情報が発信されている。今後も、家族との話し合いの中でこれまで培ってこられた場所や知人、趣味等をリサーチされることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身体レベルに即した席割りや部屋割りを行うことで、利用者同士が関わり合える環境を作っている。ご利用者の趣味、嗜好にあったレクリエーションを実施することにより孤立せずに楽しい生活の場を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を通じて本人の意向を確認し、その人らしい生活ができるような支援に努めている。困難な場合は、家族から情報を収集して本人の思いに沿うように努めている。	職員は1対1の時や回想法等を通じ入居者の思いを引き出したり、難聴の方には耳元での話しかけによる確認や表情・行動等サインを汲み取るよう努力している。また、開かれた質問に心がけ、本人本位になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同じ方であっても、同じ1日の過ごし方ではないため、記録や申し送りを通じて心身の状態も含め総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングが出来ていないが、スタッフミーティングなどで意見を出し合い、本人らしい自立支援出来るような介護計画を作成している。	新たにカスタマーオーダーシート(24時間シート)を見直し、家族が確認しやすいように改善している。管理者と職員とが相談しながらの3ヶ月毎の見直しやADL低下等状態変化時には家族と話し合いを行い、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容・結果・気づきを個別記録に記入し、職員間で情報を共有している。関係者間での協議により介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応する為に個別バスハイクを計画したり、柔軟な支援により、はりのある生活を継続して頂けるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部からのボランティアや保育園児との交流により、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続している。受診は家族対応を基本に事業所として一人に対して、2週から4週に掛けて外出支援にて受診し、対応に努めている。	ももとのかかりつけ医を継続して支援しているが、健康状態によっては家族の要望で変更される場合もある。受診は職員の送迎に家族も同乗される方や、現地で待ち合わせるなど様々である。ホーム内では週一回の訪問歯科医によるチェックや、月一回の体重測定、朝食前のバイタル測定により健康状態を確認し、気になる点があれば医師に連絡を取り指示を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々の観察やバイタルの中で、利用者の状態に変化がある時はもとより通常もかかりつけ医に相談し、緊急時は主治医、ご家族と相談し、緊急受診が出来る様に体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院となった時はもとより普段から介護情報の提供を行っている。治療中は医療関係者との連携を取って情報を収集し、退院後のスムーズな支援体制に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化した場合や終末期のあり方についての話し合いを行っている。また、運営推進会議でも施設の取組みや方針を報告し理解が得られるよう努めている。	終末期の対応については主治医と家族の連携によって希望があれば行うこととし、家族へは契約時に看護師が常駐していないことを伝えた上で要望を聞いている。これまでホームでの終末期支援の事例はないが、高齢化するなかで管理者は今後の課題としている。	高齢化に伴い体調の変化や異常があった場合でも入居者や家族が安心して過ごすため、今後はホームでできる事・できない事を話し合い、指針として作成されることを期待したい。また、家族にも機会を見ながら意思確認を書面で交わすことが必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制や事故発生時のマニュアルは用意しており、心肺蘇生法について勉強会をしている。その為、職員が急変時に落ち着いて適正な対応が出来るよう、研修を重ねていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策の基本である火災避難誘導の訓練を夜間と昼間想定で年2回行っている。夜間想定での避難訓練ではご利用者にも参加いただき、避難誘導し難い点、対策について話し合っている。	災害時(地震・火災・台風)のマニュアルを整備し、昼・夜を想定した年二回の火災避難訓練には近隣者の参加が得られている。校区は防災訓練や防災会議・防災ゼミの開催など災害に意識を持って取り組んでいる地域であり、ホームも参加している。台所のガスについて日頃は職員による安全確認の他、業者により定期点が行われている。備蓄は現在のところ確保されていない。	今後も地域との協力体制の強化と、備蓄について検討されることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルを基に勉強会を開催し、言葉掛けや対応などプライドを損なわないように、またケアの場面において一人ひとりのプライバシーが確保できるケアにあたっている。	接遇に関する研修会やマニュアルを読み込み、入居者の尊重やプライバシーに配慮した支援について共有を図っている。同性介助や呼称は苗字に“さん”づけを基本とし、入室の際はノックや声かけを徹底している。個人情報の使用にあたっては家族の同意を得、職員の守秘義務についても指導が行われている。	現在、排泄は全員トイレを使用されており、居室に置かれているポータブルトイレについては撤去されることが望ましいと思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	グループホームは生活の場所であり、時間で束縛する事なく、自己決定が出来る環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、趣味、嗜好に基づいてご本人に自由に過ごせるように環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けを行い、本人が着たい服を選んで頂いている。希望があればなじみの美容師に訪問を依頼するなどして、本人の個性が維持出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者が無理の無いよう、出来る範囲で食事の準備や片づけを職員と一緒にやっている。	現在は同法人の厨房で調理された物を使用し、ご飯と朝食のみホームで作られている。そのため入居者が調理や食材購入など食に関わる事は少ないが食器拭きやエプロンたたみなどできることに取り組み、職員は介助を行いながら持参した弁当と一緒に開いている。テーブルとセットの椅子は重厚であるが、入居者の中には、肘添えがないことやテーブルが高く不安定になられる方もおられるようである。	家族への食事に関するアンケートの結果を踏まえながら、食事環境(語りかけや食事時の洗い物の音、エプロンの使用方法など)や職員から出された外食支援の導入など、全職員で楽しい食事支援について検討されていくことに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスにおいては法人の管理栄養士に相談している。また、水分補給をまめに行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けの方、見守りが必要な方、解除が必要な方と個々に応じてケアを行っている。状態によっては訪問歯科により口腔内のフォローをして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、排泄のパターンを把握を把握し、自立に向けた支援を行うよう努めている。	日中はトイレでの排泄を基本とし、誘導や自立の方の見守り支援が行われ、夜間はなるべく安眠を優先し対応している。個々の排泄パターンを全職員で共有し、自立や失敗のない支援に努めている。職員も同じトイレを使用することで、トイレトペーパーや臭気など小まめな確認に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用しながら、排便コントロールに気をつけている。自然排便を促す為に、適度な運動(ラジオ体操)や水分補給の声掛け、腹部マッサージ等を施行し便秘にならないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日お風呂を準備している。1日おきの入浴を目安にしているが、希望があれば入浴日でなくても入って頂いている。	週三回以上の入浴支援が行われており、拒否の方へは別日や職員を交代することでスムーズな入浴支援に繋げている。基本的に同性介助としているが、男性職員が力の面で安心できるなど本人の希望も確認しながら臨機応変に対応している。居室から自分用の桶を持って浴室に向かわれる女性入居者の姿など日常の入浴の光景も確認された。	今年度実施された家族アンケートの中で、入浴に関してよくわからないと回答された方も多かったようである。今後は、浴室内棚の整頓など環境整備にも努めながら、家族に入浴状況について知ってもらうことも必要と思われる。安心や信頼に繋がるような取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて、その時々状況に応じて見守ったり、温度調節をしたり、布団掛けの調整で良眠できる睡眠を目指している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理は職員が行い、服薬の際は、服薬ダブルチェック表を作成し、飲み忘れや誤薬防止の為の取組みを行っている。名前を声に出して細心の注意を払いケアに当たっている。服薬が原因とみられる体調不良時は主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせ、食事の片づけなど利用者が出来ることは無理強いせずに見守っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や菅原神社へのお参りなど外出の機会を作りまわりの景色や季節を感じて貰っている。家族にも外出支援の協力をして頂いている。	季節の良い時期は地域の神社へ散歩に出かけたり、バスハイクとして買い物や自然公園などに出かけている。管理者は継続されている地域保育園児の来訪を、今後はホームより園の方へ出向き交流を深めたい意向である。	家族の協力を得ながら身近な散歩の機会が持たれることにも期待が持たれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、お金を持つこと、使うことの大切さを理解しており、実際に欲しい物を購入できるよう、自立支援を行っている。同時に家族同意の下で事業所預り金がある。必要とあらばお金を預かり管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の今までの関係性を壊すことなく、手紙や電話のやりとりを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光彩や室温に気を配り、空調の管理を常に行っている。ラジオやBGMとして音楽を流すことにより、居心地よく過ごせるようにしている。花を生けたり季節の創作物を掲示したりしている。	リビング食堂とソファが置かれた交流スペースの二間をメインとしたホーム内は、小まめな空調管理が行われている。浴室やトイレ、洗面台などの共用スペースは臭気もなく清潔に管理されており、トイレについては入居者が迷われることのないよう太字で案内表示されている。	リビングの窓からは近隣の庭や山など季節の移り変わりをはじめ、人や車の往来を楽しめる環境にある。来訪者からも提案されているように今後はカーテンを開けることで採光やオープンなホームの雰囲気にも繋がっていくと思われる。また、広報誌をはじめ掲示物についてもタイムリーさにも配慮することで、情報発信に活かされることが期待される。職員の提案やアイデアによる空間作りにも期待が持たれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビング、ダイニングと複合的に利用することにより、開放的な空間で思い思いに過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた調度品を居室に設置することにより、居心地よく過ごせている。	入居時の際に使い慣れた物品、昔を思い出す品、元気だった頃の物の持ち込みの効果家族に伝えている。掃き出し窓の部屋は、車椅子や手引き歩行の方も安全に過ごせるよう掃除や整頓が行われている。テレビを持ち込み自分の時間を過ごされる方、家族の来訪時には自室でゆっくりおしゃべりや食事の時間を楽しまれる方、味わいのあるダンスが持ち込まれた部屋など、どの部屋も本人や家族の思いが伝わって来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かる様に掲示物として「御手洗」の案内表示をしている。安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		